

令和元年5月19日(金)紀州新聞

和田勇氏の紙芝居完成、寄贈

和田勇顕彰会



「わだいさむものがたり」を見る園児ら

勇が暮らした名田の幼稚園へ

和田勇顕彰会（会長・吉

田擴御坊商工会議所会頭）

が、日所高校JRC（青少

年赤十字）部の協力を得て

制作を進めてきた紙芝居

「わだいさむものがたり」

が完成し、17日、同会の川

瀬和男副会長と岡本恒男事

務局長が名田幼稚園（富上

泉園長）を訪れ、園児らに

贈呈した。

名田は、勇氏が幼少期を

過ごし、地元の漁民らから

助け合いの精神を学んだ

地。地庵弥寿子教諭は、

さっそく年中・年長児22人

を前に「昔、名田で任ん

でた人で、東京でオリンピッ

クができるように頑張っ

てくれた人です」と前置き

して、読み聞かせた。園児ら

は静かに紙芝居を見つめ、

物語をに耳を傾けた。

紙芝居を読み終え、地庵

教諭は「みんなと同じ名田

にいた人やで。覚えておい

てください」と園児らに呼

びかけた。「東京でオリ

ピックができてよかった」

とは、野手奏陽君（5）。

紙芝居は、和田勇氏が名

田の地で過ごした幼少期か

ら、アメリカでの青果店経

営、戦争、全米選手権大会

に出場する日本水泳選手団

の支援などを経て、東京オ

リンピック招致に尽力し開

催を実現するまでの一連を

描いたもので、幼稚園・保

育園児から小学校低学年向

け。16枚の絵は日所高校J

R C部、文は本紙記者・藤

本亜矢子が手掛けた。

紙芝居は、市内12の幼稚

園・保育園に寄贈し、市立

図書館にも置く。